



ご自由に
お持ち帰り下さい
Complimentary

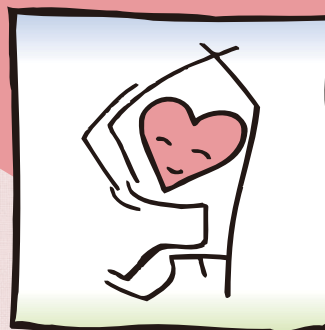
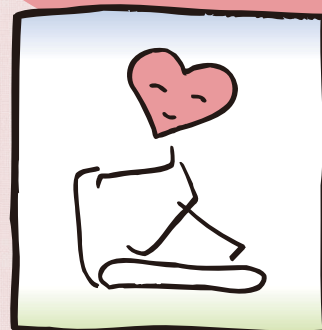
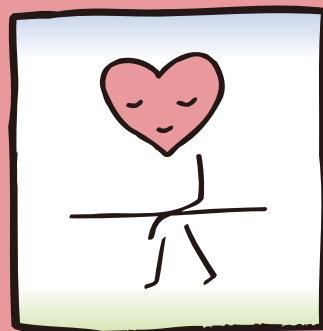
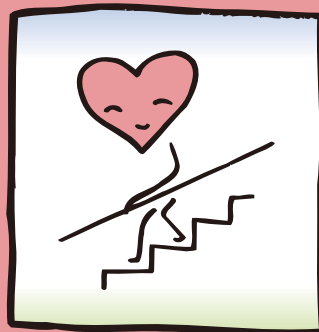
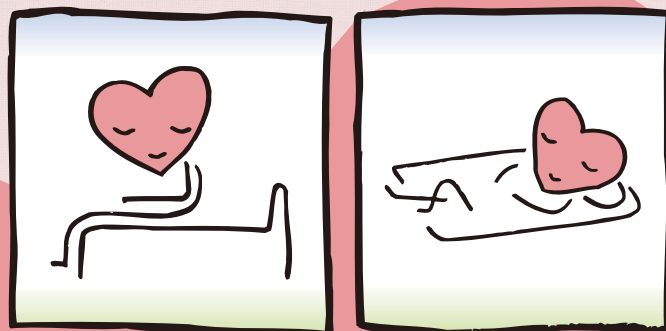
特集

Special edition

心臓リハビリテーションセンター

Cardiac rehabilitation center

帝京大学医学部附属病院の
新医療施設



帝京大学医学部附属病院

〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1
TEL.03-3964-1211 (代表)
<http://www.teikyo-u.ac.jp/>

院内報についてのお問い合わせ先
帝京大学医学部附属病院 広報委員会
E-mail:kohoiin@med.teikyo-u.ac.jp

◎発行年月
2013年1月
◎発行
帝京大学医学部附属病院 経営企画室
◎編集・制作
アルケファクトリー

目次

02 連載 心臓リハビリテーションの歴史

03 特集 心臓リハビリテーションセンター

帝京大学医学部附属病院の新医療施設

04 帝京大学医学部附属病院における心臓リハビリテーションとは

副院長・内科学講座教授・循環器内科長・循環器センター長 一色高明先生
心臓血管外科科学講座主任教授 下川智樹先生

08 わたしたちがみなさんのお手伝いをします

看護師 渡邊正美さん／理学療法士 西川淳一さん

10 帝京大学医学部附属病院心臓リハビリテーションセンターをご案内します！

循環器内科 紺野久美子先生／理学療法士 西川淳一さん

15 自宅でできる！ 簡単エクササイズ

16 連載 チーム医療

薬剤師 御澤勝将さん／管理栄養士 早崎麻衣子さん

18 Topics & News

帝京大学医学部附属病院からのお知らせ



特集

心臓リハビリテーションセンター

例えば骨折して、長期間歩くことができなかった患者さんには歩行訓練などのリハビリテーションが必要です。

それと同じように、心臓病や心臓の手術をした患者さんにも

「心臓リハビリテーション」というリハビリが重要な役割を担っています。

機能回復だけではなく、社会復帰のための第一歩。

それが、「心臓リハビリテーション」なのです。

【心臓リハビリテーションの歴史】

1956年、日本内科学会において狭心症に対する積極的運動療法が提唱されたところから、日本の心臓リハビリテーションは始まりました。そして1965年からは、日本リハビリテーション医学会において心臓リハビリテーション領域の演題発表がされるようになりました。心臓リハビリテーションが更なる発展を遂げたのは、1977年ハンブルグでの第1回世界心臓リハビリテーション学会の開催を受けて、その翌年心臓リハビリテーション研究会が開催されたことがきっかけといわれています。

1983年に厚生省循環器病研究班が急性心筋

梗塞リハビリテーションの4週間プログラムを完成させ、また1993年に2週間・3週間プログラムが提唱されたことが、その後の心臓リハビリテーションの発展に大きく貢献しました。また1988年に日本で初めて心臓リハビリテーションが保険診療に適用され、これにより徐々に急性期心臓リハビリテーションが普及していくこととなりました。

近年は、入院患者だけでなく外来通院患者にも門戸を開き、その目的も再発予防や予後改善、またQOL(生活の質)向上に変化してきています。

(CINJ参考)



帝京大学医学部附属病院における 心臓リハビリテーションとは

よりよい状態でより健康に暮らすために、
心臓の機能を回復するだけではなく、前向きに。
心臓リハビリテーションのもうひとつの役割です。

一般的にはあまりなじみのない、心臓リハビリテーション。循環器内科の一色高明先生にお話を伺いました。

「循環器とは心臓や血管など生命維持に必要な酸素や栄養分を身体の隅々まで循環させるシステムのことをいいます。循環器内科は心臓や血管に関わる病気を総合的に診断・治療・予防する科です。心臓リハビリテーション（心臓リハビリ）は、重症の循環器病の患者さんが健康的な生活を取り戻せるように総合的に支援する一つの治療法です。」

心臓リハビリテーションは通常のリハビリテーションとどこが違うのでしょうか？

「骨折や脳卒中などの後に行われるリハビリは、障害されている身体部分の機能回復を目

的としています。心臓リハビリは心臓や大動

脈の手術後の患者さんや、心筋梗塞や心筋症などで心臓の機能が低下した心不全の患者さんに対して行われるもので、有酸素運動を取り入れた運動療法を中心に、カウンセリングや講義などを加えた総合的な生活指導を行うことによって、『心臓の機能を回復させ、健康な身体を取り戻す』ことを目的としています。心臓リハビリをきちんと行うと、心臓病の患者さんの寿命が延びることも証明されています。自分の身体の状態を把握し、病気に対する正しい知識を身に付けることにより、健康の維持に何が大切なのか分かり、病後の回復にも自信を持つことができるようになります。何よりも生活が前向きになってきます。

一色高明 先生
Isshiki Takaaki

副院長
内科学講座教授
循環器内科長
循環器センター長

1975年東北大学医学部卒業。
1981年に東京大学医学部第一内科助手。1986年から米国・ニューオリンズAlton Ochsner Medical Foundationに留学。
1988年に帰国後、三井記念病院循環器センター内科科長、1992年帝京大学医学部第二内科助教授、1999年同教授、現在は附属病院循環器センター長を務める。
専門領域は急性心筋梗塞・不安定狭心症、冠インターベンション、抗血小板療法。



心臓リハビリは薬物療法よりも有効とも言われており、重症の循環器病の診療には不可欠のものと注目されています」

心臓リハビリテーションセンター 設立の目的とは

なぜこの時期に心臓リハビリテーションセンターが開設されたのでしょうか？

「帝京大学医学部附属病院ではこれまで心臓リハビリが行われていました。しかし、十分なスペースが確保できず、ニーズに応えられていませんでした。より多くの入院患者さんに心臓リハビリを行う必要があることや、退院後も外来で心臓リハビリを続けて行くことが望ましいことから、多くの患者さんに同時に心臓リハビリを行うことができる施設が必要になったのです。今回幸運にも3階にスペースを確保することができたことで開設する運びとなりました」

心臓リハビリテーションセンター 今後の展望

センター設立から3カ月、患者さん達からも大変好評のようです。

「今は若干マンパワーが不足していますが、今後増員の見込みが立っていますので、できるだけ早くセンターの機能をフルに活用できるようにしたいと思っています。」

また、患者さんが元気になる過程にたずさわっているスタッフの皆さん。やりがいのある仕事ですので、みんなで素晴らしいセンターに育てていきましょう」



各部署のスタッフがそれぞれの任務を遂行し、
つくりあげていく。

それが心臓外科手術と心臓リハビリテーション。

心臓血管外科の下川智樹先生に、心臓リハビリテーションと心臓血管外科との関わりについて伺いました。

「心臓血管外科は、心臓と血管の病気に對して手術を行って治療をする科です。まずは循環器内科で検査をして、手術が必要なら心臓血管外科に転科することになります。

心臓リハビリテーションと心臓血管外科との関わりは密接で、心臓リハビリテーションなどではいい治療はできないと考えています。手術をしただけでリハビリをやらなければ患者さんはよくありません」

心臓リハビリテーションセンター設立の経緯はどのようなものでしたのでしょうか？

「2009年に帝京大学に赴任したときは、心臓リハビリテーション施設がないという話だったので、必要性を訴えたところ循環器内科の一色先生のご尽力で、無事設立の運びとなりました。過去3年間に約700人の手術を行い、全員心臓リハビリテーションを行っ

ています。以前は、患者さんには手術後一ヶ月くらい寝てもらうのが当然でしたが、今は早く動かした方が様々な合併症にもかかりにくいということがわかってきました」

**心臓リハビリテーションセンターが
果たすべき役割**

「脳血管や整形のリハビリと違い、患者教育も担うということです。薬剤師が薬のことを説明し、管理栄養士が栄養のことを説明するなど、予防医学に近いところがあると思います。そういう部分も含めて心臓リハビリテーションなので、患者さんが能動的に、やる気になるためのお話しをします。リハビリの技師さんは患者さんと世間話をしながら廊下を歩いたりするので、『患者さんはこういう不安をもっている』という情報を引き出して、それを主治医に伝達することができます。普段感じていることやちょっとした不安等を、リハビ



下川智樹 先生
Shimokawa Tomoki
心臓血管外科学講座主任教授

平成4年佐賀医科大学卒業。佐賀医科大学胸部外科に入局し、榊原記念病院専修医、佐賀医科大学胸部外科医員、榊原記念病院心臓血管外科医長を経て平成21年9月より現職。

手術実績（執刀数）
心臓大動脈手術 2043例
（2002年5月～2012年11月）

リの技師さんを通じて知ることができますし、これがチーム医療に繋がっていくと思います」

**心臓リハビリテーションを
もっと広げたい**

「日本で高血圧の薬を飲んでいる人はたくさんいますが、そのほとんどは心臓リハビリテーションとは無縁です。そういう方も心臓リハビ

術後1日目から始まる、リハビリテーション。

1日目 起立、足踏み

70歳代女性 弁置換手術後



2日目 50m歩行



3日目 100～200m歩行



4日目 200～400m歩行

70歳代男性 環動脈バイパス手術後



5日目 400m歩行+階段



6日目 心臓リハビリ室



リテーションが受けられるようになってほしい。民間や地域や、他の病院でも受けられるようになればと思います。そういう意味では、心臓リハビリテーションはスタートしたばかりだといえます」

最後にスタッフへのメッセージをお願いします。

「心臓手術をするだけで患者さんは元気になるわけではなく、それぞれの担当部署が、それぞれの任務を行うことによって完成されるのが心臓外科手術だと思います。一緒にチーム医療を行っていきましょう」



わたしたちがみなさんのお手伝いをします

心臓リハビリテーションセンターには様々な役割のスタッフがいます。どのようなお仕事をしているのか、ちょっとのぞいてみました。

一人ひとりの生活習慣に合わせたご提案をしています

看護師 渡邊正美さん

渡邊正美さんは、心臓リハビリテーションセンター専属の看護師です。「心臓リハビリテーションセンター」には、現在医師と理学療法士と看護師の3名がおります。患者さんに様々な項目を確認して、その日リハビリが行えるかどうかを医師に相談したり、日常生活に関することを伺い、改善する部分があればアドバイスをしています。入り口がガラス張りオープンになっているので、以前対応した患者さんが気づいてくれてお話しできたり、嬉しいこともあります。検査室への通路になっているので通る方も多く、ここはどういうところなのとよく聞かれますし、見られることが多いので少し緊張しながら仕事をしています」

生活指導では、どうしても患者さんの生活に踏み込まないといけないのが気を遣う部分だそう。

「もう何十年も積み重ねて生活リズムができているので、それを変えるのは大変です。例えば1日2食のリズムができている方に、急に3食食



べてくださいといっても難しいです。であれば、その2食の中でどのように栄養バランスを考えないといけないかということをお話しします。朝体重や血圧を測るのも、毎日のことですからやはり面倒だと思うので、それに関に生活習慣に取り入れていくか。朝起きたときからの患者さんの行動パターンがわかっているのと、この後こうする習慣をつけようというご提案もできません。もう少し、患者さんとゆっくり話す時間をつくっていただけるようにしたいですね。まだ業務にも慣れていないので、うまくこなして時間をつくりたいと思っています」



2002年4月、帝京大学医学部附属病院看護部に入職。8年間循環器センターCICUにて勤務。心臓リハビリテーションセンターの立ち上げと共に専従看護師となる。

tools



一ヶ月に一回、患者さんと看護面談をするので必要なグッズは鞆にワンセット入れています。日常生活のアドバイスのできるもの、料理レシピなど、患者さんに必要な情報、欲しいだろうなと思う情報一式です。またかわいいうんちやふせんなど、患者さん自分もなごめて楽しい気分になるものを揃えています。

患者さんのやる気を引き起こすように心がけています

理学療法士 西川淳一さん

西川淳一さんは、心臓リハビリテーションセンター専属の理学療法士です。「心臓リハビリは運動療法、食事療法、薬剤療法を柱とする包括的なプログラムです。これらをバランスよく継続してもらうことで、心疾患の再発率を低下させたり、生命予後を改善させることができます。一般にリハビリというと日常生活動作を獲得するための訓練を連想する方が多いと思いますが、心臓リハビリはそれとは少し違いますね」

「心疾患患者さんに対する運動療法の効果は世界中で報告されていて、心臓リハビリプログラムの中でも運動療法は最も重要だと言われています。理学療法士は運動療法の専門家として、個々の患者さんの心機能や身体特性に見合った運動プログラムを組み立てたり、様々な検査データをもとに運動中に異常が出ていないか、きちんと効果が表れているかなどをチェックする役割を担っています」

集団プログラムに参加されることで、ご自分の病気と向き合えるようになる方が多いそう。

「心機能が悪かったり、不安が強くて満足に外出もできなかった患者さんに、『おかげで人生を楽しめるようになった』と感謝されると、この仕事に就いてよかったなと思います。心臓リハビリに参加している患者さんの多くは、生活習慣の乱れが原因で病気を発症していることが多いので、患者さん自身が生活習慣を改めようと思わないとなかなかリハビリの効果が現れません。ですから我々スタッフは患者さんが受け身にならないようにアドバイスの仕方を工夫しています。最終的には、患者さん自身が

tools



右から時計回りに血圧計、聴診器、活動量計

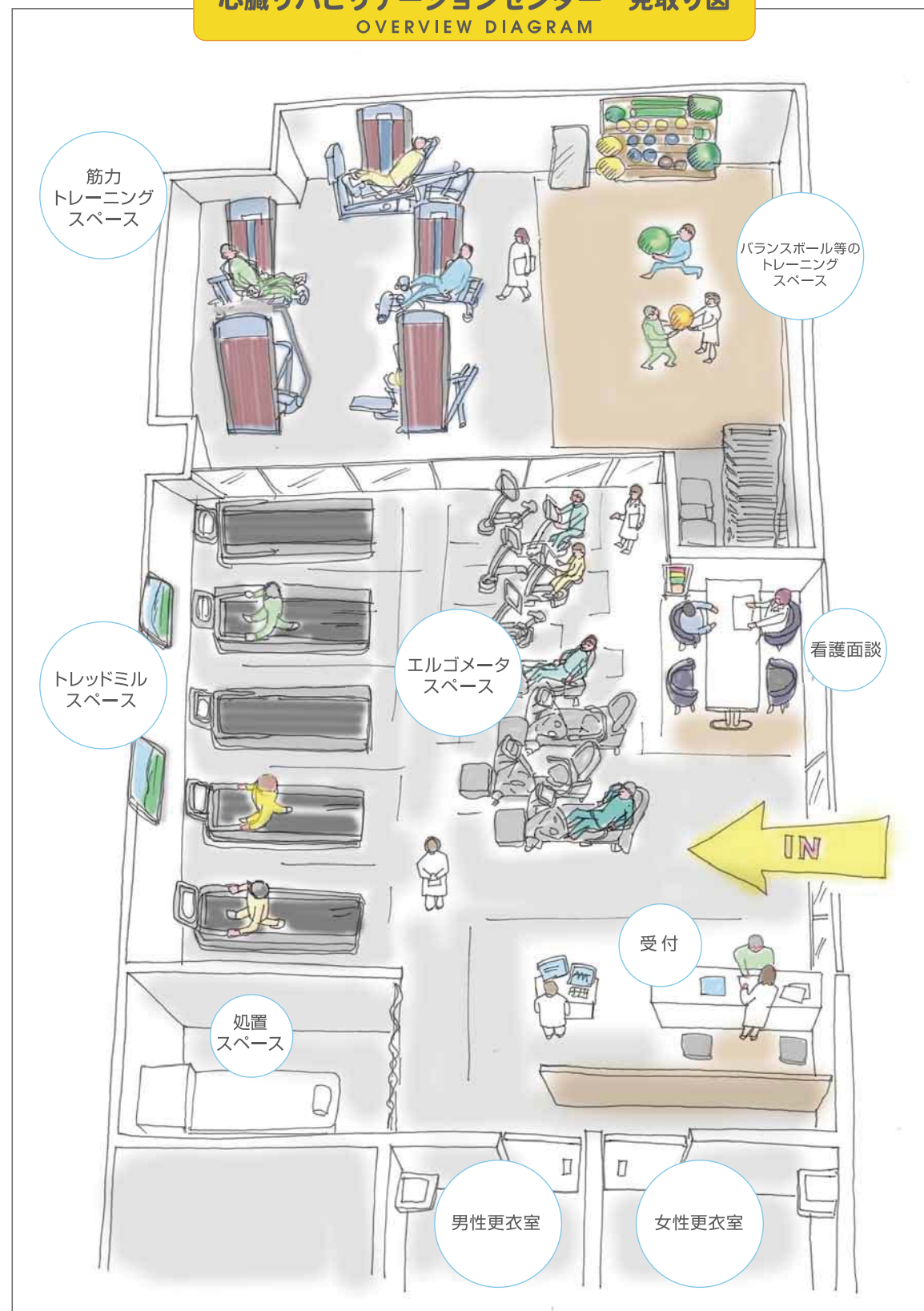


2005年4月 理学療法士資格取得し、群馬県立心臓血管センターへ入職。心臓リハビリ業務に従事。
2010年1月 帝京大学医学部附属病院の心臓リハビリ立ち上げのため、当院へ異動。心臓リハビリ部門専属の理学療法士として、急性期から回復期の心疾患患者のリハビリに従事。
＜関連資格＞
心臓リハビリテーション指導士
糖尿病療養指導士
米国スポーツ医学会ヘルスフィットネススペシャリスト

理学療法士は心疾患を発症して間もない患者さんのリハビリも担当しているので、心音や呼吸音を聴取するために聴診器はよく使います。活動量計は心臓外科手術後の患者さんに24時間つけてもらっています。一日にどのくらい座っていたか、何歩歩けたかなど観察して手術後合併症に対するリスク管理をしています。



心臓リハビリテーションセンター 見取り図 OVERVIEW DIAGRAM



帝京大学医学部附属病院 心臓リハビリテーションセンターをご案内します！

ガラス張りでオープンな雰囲気的心臓リハビリテーションセンター。
常駐しているお二人に、じっくり案内してもらいました。

心臓リハビリテーションセンターとは、どのようなところでしょうか？

紺野「元々、心疾患のある患者さんの治療後や、心臓の機能が低下した方への心臓リハビリの目的のための施設は別のフロアにあったのですが、必要性が高まったので今の場所に移設して大きなセンターをつくりました。以前はトレーニングの機械も少なく3台だけで、使用できるのは入院患者さんが対象でしたが今は外来患者さんでも使えるようにしました。入院中だけではなく退院してからもリハビリを続けることが大切なので、そういうシステムをつくりました」

運動前後に行わなければならないことや、気を付けなければならない

いことはありますか？

西川「本格的な運動の前には十分な準備運動を行い、心臓が楽に働けるように身体環境を整えなければなりません。運動後も問題ないかどうか、きちんと確認してから帰っていただきます。運動の量や質を間違えてしまうとリスクが高まるだけでなく効果が出なくなることもあるので、適切な運動量や方法を運動療法の専門家である理学療法士が安全性を考慮してプログラムを組んでいます」

心臓リハビリテーションセンターの目的とはどんなことでしょうか？

紺野「楽しくリハビリに取り組んでいただくということです。健康面に不安を感じるとどうしても家に閉

じこもりがちになってしまうので、

入院中から継続して通って、不安を取り除いてもらいたいですね。外来の患者さんも、午前午後どちらでも選択して来られるようにできたらと思います。ご自身の病気のことを知ってもらうために講義を聞いてもらったり、必要であれば食事療法も受けてもらうなど全面的なサポートをします。治療だけではなく、運動だけでもなく、薬のことや食事のこと、また禁煙の必要性を話したり、メンタル面のことに気をつけたり、総合的にリハビリテーションを行うのがこの場所になります。チームで支えますので、心も体も元気になってほしいですね」



西川 淳一さん
Nishikawa Junichi
理学療法士



紺野 久美子 先生
Konno Kumiko
循環器内科 助教

2002年3月帝京大学医学部卒業後、帝京大学医学部附属病院内科にて2年間の研修を経て、帝京大学大学院へ進学。2008年4月帝京大学医学部附属病院内科学講座に入局、現在に至る。
専門分野は循環器一般、循環器画像診断、心臓リハビリテーション、血管内イメージング。



かつては心疾患の方に筋力トレーニングは有酸素運動に比べて敬遠されてきましたが、筋力や筋持久力の強化、体脂肪の減少以外にも、血清脂質や糖代謝の改善などの効果が期待されます。

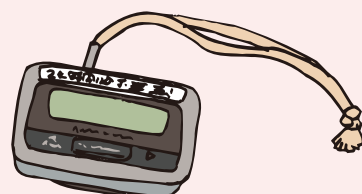


チェスト・プレス
ハンドルを持って腕の曲げ伸ばしをします。胸筋や上腕の筋肉を鍛えることができます。

シーテッド・レッグカール
足でパッドを押し下げます。お尻と太腿裏の筋肉に効きます。

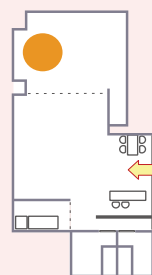


▲ レッグ・エクステンション
足首でバーを上げて、太腿の筋肉を鍛えます。



▲ マシンは5種類あり、それぞれ鍛えられる部位が違います。

適切な負荷を掛けて筋力トレーニング
ハードなイメージのある筋力トレーニングですが、心臓の機能が低い方にこそ必要です。



◀ トレッドミル

主に歩いたり走ったりするもの。有酸素運動を行うための機械で、リスクがある運動強度でないかどうか、効率よく運動できているか理学療法士がチェックしながら行います。



▶ エルゴメータ

自転車形のマシンで、ペダルを足で回転させて有酸素運動を行います。エルゴメータには、背もたれのある『リカベンテエルゴメータ』と、背もたれのない『アップライトエルゴメータ』があり、それぞれの方の疾患や身体的特徴に合ったマシンを選びます。



運動が一段落つくと心電図を確認し、血圧を測って、運動負荷が適切であったか、異常の有無をチェックします。



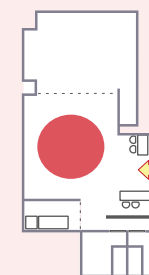
ボルグスケール

運動中きつすぎないか、楽すぎないか伺って、リハビリテーションにちょうどよい『ややきつい』ラインを保っているかを確認するためのひとつの指標。

運動を安全に行うために心電図モニターを装着して頂き、スタッフが監視します。また途中で症状の確認や血圧を測定するなど、チェックしています。ここは「見エスポート」のようですが、そこが違う部分ですね。



有酸素運動で血管を柔らかく、血液をサラサラに
入ってまず目に付くのが、有酸素運動のための様々なマシン。リスクを管理しながら個々に合わせて適切な運動を行います。





自宅でできる！ 簡単エクササイズ



次に手首を返すように指先を引き腕まわりの筋肉を伸ばします。
15秒以上筋肉にテンションをかけて、血管がしっかりと広がるように。



朝起きたときにベッドに腰掛けてやってほしいストレッチです。気温の低い冬場は手足の血管を拡げるために特に重要です。腰が悪い方でも大丈夫ですが、あまり痛みが強くならないよう、気持ちいい程度に伸ばしましょう。

全身のストレッチ

つま先を上げた状態で、身体を前傾させるストレッチです。ふくらはぎから太股の裏側を伸ばすよう意識しましょう。

ストレッチをはじめとしたエクササイズが必要なのは心疾患患者さんだけではなく、ちよつとした空き時間にできるストレッチを紹介しします。



ふくらはぎは第二の心臓と呼ばれています。心疾患の方はこのふくらはぎの筋肉が劣化してしまうと心臓に負担が掛かります。1セット10回を基本として、一日に1セットから2セット行いましょう。

ふくらはぎの筋肉強化

かかとをしっかりと上げて下げる、ふくらはぎの筋肉を強化させる運動です。



椅子に深めに腰掛けて、足首に重しをつけて左右10回ずつ上げ下げします。
足を上げるときに息を吐くようにしましょう。膝の関節を守る太腿前側の筋肉をつけることができます。重しがなければ、膝掛けのように載せた布団を蹴り上げても。10回以上反復してできる重さであれば、心臓に負担は掛からないので高齢者にぜひやっていただきたい運動です。心疾患患者さんの場合、この太腿の筋肉が強い人が長生きするといわれています。

太腿の筋肉強化

椅子に深めに腰掛けて、足首に重しをつけて左右10回ずつ上げ下げします。

筋肉にテンションを掛けた状態を15秒以上続けると、反応性充血という反射を通じて末梢血管が拡張します。そうすると、心臓が楽に働けるようになります。

西川 淳一さん
Nishikawa Junichi
理学療法士



▲ボールを使ったバランスや筋力のトレーニング
1キログラムから10キログラムまで様々な重さのボールがあります。



ボールの中に水が入っています。中のお水が遅れて動くので、自分の意識とは違ったタイミングで負荷が掛かります。お腹まわりのトレーニングにも有効。



筒状の器具に横たわると胸郭がストレッチされます。肺の疾患を合併している方や高齢者など、胸郭の可動性が落ちている方におすすめ。横になりバランスを取りながらストレッチします。



棒の頭には5キログラムのボール、根元には吸盤がついています。実動作の応用訓練に。



心臓リハビリテーションで
元気な体を取り戻しましょう！



バランスボールに乗りながらストレッチや筋トレをするなど、二つの動作を同時に行うことによって筋力アップ・バランス能力アップする他、認知面も改善されるというデータも。



心疾患患者さんは高齢の方が多く、ちよつとした動きでバランスをくずしがち。日常生活の動作がちゃんとできるように、力だけでなくバランスや俊敏性を高めるようなエクササイズを導入しています。



器具を利用して応用動作のトレーニングを行います。
カラフルなボールなどを使って、体の深層部の筋肉にも効くトレーニングをします。



患者さんの目線でお話します

薬剤師 御澤勝将さん

薬剤師の御澤勝将さんは、病棟で入院患者さんの服薬指導をしたり、医師から薬剤に関する質問を受けたりしています。

「みんなの役に立てる仕事に就こう」と思い、理系が得意だったので薬剤師を目指して薬学部に進みました。患者さんとお話することも多いので、専門用語や難しい言葉や横文字は使わず、分かりやすい言葉を選ぶことを心がけています。また患者さんが横になっている側で立ったまま話すと威圧感が出てしまうので、目線を合わせてしゃがんでお話しをします。一方的に説明するのではなく、もし何か分からないことがあったら気軽に質問できるような空気を作っていきたいです」

帝京大学医学部附属病院のいいところは、患者さんの「受け入れ態勢」とのこと。



「夜でも朝でも、どんな患者さんも受け入れます。科が全部揃っている、なんでも病院内で診療できる場所も素晴らしいと思います。あと循環器内科の先生は、説明が丁寧ですね」
お仕事をされる上で嬉しいことは、やはり感謝の一言。
「患者さんから『ありがとう』と言われたと

きは、やりがいを感じます。ずっと服薬指導をしていた患者さんから、亡くなる直前に感謝の言葉をいただきました。その一言がすごく嬉しくて、忘れられません」

今の目標は、早くチームの一員になることだそうです。

「循環器病棟の担当薬剤師になってまだ4カ月なので、まだまだ力不足な部分は多いと思います。以前は治験コーディネーターをされていて、循環器内科の先生方とは一緒に仕事をしていましたが、今は病棟薬剤師となったので、先生方との接し方も少し変わってきました。治験コーディネーターの時は外来の患者さんが多く、かなり長期的に関わる必要でしたが、今は入院期間毎になり、毎日の動きを把握しないといけないなど、経過の見方も全く違います」

最後に患者さんへのメッセージを。

「ご質問などあれば、気軽になんでも声を掛けてください。時間は全然気にしないので、お薬の話2割、雑談8割でも大丈夫です」

MY HOBBY

趣味は、小学校3年生のときから続けている剣道です。今は3段で、毎週日曜にはボランティアで少年剣道を指導しています。子どもの頃から通っていた地元の教室ですが、いつのまにか教える立場になってしまいました。



御澤勝将さん
Misawa Katsumasa
薬剤師

2002年 3月 日本大学薬学部卒業
2004年 3月 日本大学大学院薬学研究科卒業
2004年 4月 帝京大学医学部附属病院薬剤部入職
2012年 10月 循環器センター CICU・PCU病棟担当薬剤師

治療の一環としての食事を研究

管理栄養士 早崎麻衣子さん

管理栄養士の早崎麻衣子さん。入院患者さんの栄養管理や給食業務、そして栄養指導を行っています。

「自分が食物アレルギーだったので、小さい頃から医療関係の方にお世話になることが多く、食を通して病気を治すことに貢献できたと思います。治療の大切な一環として、患者さんの栄養状態を把握し、栄養状態の悪い方を拾い上げ栄養管理計画を立てます。栄養指導は入院の患者さんにも外来の患者さんにも行います。栄養状態が悪いと手術しても効果が出にくかったり、手術自体中止になることもあるのです。治療の根本は、その人の栄養状態が悪いのかということに非常に関わってきます」

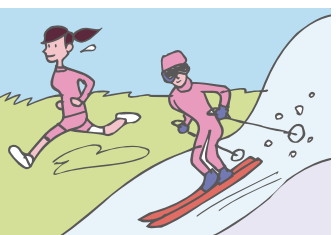
最も気を付けていることは、衛生管理。



「栄養部の理念は『安心安全な食事を提供する』ということです。食中毒など起こしては治療が無駄になってしまいます。当たり前のことですが、帝京大学医学部附属病院では食中毒は一回もおきていません」
励みになったのは、ある妊婦さんに栄養指導をした時のことだそうです。「血糖値の高い、糖尿

MY HOBBY

スキーやランニングなど、アウトドアで体を動かすことです。スキーは小さい頃から続けていて、年に3回くらい滑りに行っています。また日頃時間のあるときは走るようにしていて、フルマラソンに出場するのが今年の目標です。



早崎麻衣子さん
Hayasaki Maiko
管理栄養士

2003年 3月 東京家政大学卒業
4月 帝京大学医学部附属病院栄養部に入職
5月 管理栄養士資格取得
2009年 6月 糖尿病療養指導士取得



「大学の目標は、日々研究したことを臨床にいかしていきたいとのこと。『大学病院ですので、研究も自分たちの使命だと思っています。糖尿病について研究しているのですが、24時間血糖測定をして、食事の後どう血糖値が変動するのか等調べています。また、基礎代謝を正確に計れる機械が病院にあるので、その患者さんに最適なカロリーを測定して、効果的な治療に協力しています。患者さんや病院のスタッフの方にも最近顔を覚えてもらえるようになったので、何かお困りでしたらぜひ気軽に声を掛けてください」

血管内治療をより安全・確実に ハイブリッド手術室を整備しました

平成24年12月末、手術室と血管造影検査室を融合させた「ハイブリッド手術室」が完成しました。

麻酔科医の状態管理のもと、従来の手術室または血管造影検査室だけでは難しかった血管内治療を安全に実施することができるよう、国内では設置数の少ない最新鋭の施設です。



X線操作室内より見たハイブリッドルーム

また、手術中に3D画像を撮影したり、フュージョン画像（過去に撮影したCT画像と手術中の透視画像を重ね合わせた画像）を表示したりすることも可能です。大動脈ステントグラフト手術、脳血管内手術などを医師・看護師・診療放射線技師・臨床工学技士のチームで、より安全・確実に行うことができます。



ハイブリッド手術室全貌

2012年12月1日 「病理診断科」が誕生しました。

病気の適切な治療のためには、病気の正確な診断が不可欠です。病気を持つ患者さんの体から採取された臓器や組織・細胞を、肉眼あるいは顕微鏡で観察して、この病気が何であるか、どのくらい進行しているかなどの判定を下すことを病理診断といいます。病理診断を専門とする医師（病理医）は、患者さんに直接お会いすることはありませんが、病理診断を通じて積極的に診療業務に携わる姿勢を明確にすることを目的に、診療科としての「病理診断科」を標榜することになりました（従来当院では診療支援部門の一つである病院病理部で病理診断を行っていました）。

正確で迅速、そして専門性の高い病理診断を目標に、「同力を合わせ、医療に貢献したい」と考えております。



ボランティア募集のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では、ボランティア活動をしていただける方、または団体を随時募集しております。活動内容や活動時間はご相談下さい。

・資格や経験は問わず、心身ともに健康な方
・人思いや温かい心をお持ちの方
・病院で知り得た個人的な情報を他人に漏らさないことを守れる方

【活動内容】

- ・外来手続き、検査受付案内
- ・自動支払機案内
- ・患者交流スペース「陽だまり」での活動

【活動日・活動時間】

- ・平日 9時から16時
- ・土曜日 9時から12時
- ・週1回2時間以上、若しくは、月に2〜3回程度継続して活動できる方を希望します。無理のない範囲でご相談の上お願いしております。

- ・患者向け冊子の整理
- ・各種催し（イベント）
- ・通訳（語学ボランティア）
- ・車いす介助



【お申込み・問い合わせ】

病院指定の「ボランティア申込書」がございます。左記にご連絡いただきお取り寄せいただけますようお願いいたします。

「ボランティア申込書」に必要事項を記載し、病院1階15番・患者相談室にご持参または、ご郵送下さい。後日、コーディネータよりご連絡差し上げ面接を行います。活動が決まりましたら、健康診断書の提出が必要となります。

帝京大学医学部附属病院
患者相談室（病院1階 15番窓口）
電話03（3964）1211（代表）

ロビーコンサート開催のお知らせ

当院では年4回の予定で、1階のコミュニティーストリートにてロビーコンサートを開催しております。病と闘っている患者さんを励ましたいと、学生さんや職員、時にはプロの方がボランティアで四季折々の演奏や歌声を披露してくれます。

不定期での開催となるため、詳細につきましては当院のホームページまたは院内掲示で発表いたします。素敵な演奏をお楽しみください。



職員と患者さんにより結成された「駒形ブラザーズ」によるサックス演奏会（2012.12.15）